

じんけん啓発推進員だより

発行：尼崎市人権啓発推進員事務局

尼崎市東七松町1-23-1 公益社団法人尼崎人権啓発協会内

TEL 06-6489-6815 / Fax 06-6489-6818 / E-mail : hcg22505@bcc.bai.ne.jp

人権啓発推進員とは・・・

市民一人ひとりの人権が真に尊重される社会の実現に向けて、地域における市民主体の人権啓発活動を推進するために、尼崎市では平成17年7月から尼崎市人権啓発推進員が設置されました。



人権啓発推進員は、尼崎市内各地区の社会福祉協議会及び地区民生児童委員協議会や各地区で活動されている団体から推薦を受け、2年任期で地域における啓発活動を展開しています。

主な活動内容は、地域でのあらゆる場と機会において、人権が尊重されるコミュニティづくりに向けた地域での活動や人権啓発に係る事業などに参加するとともに、人権啓発推進企画員の中川喜代子先生がコーディネートする人権啓発推進員会議と研修会にも参加しています。

尚、平成30年度から公益社団法人尼崎人権啓発協会がこの業務を尼崎市から受託し、事務局として実施しています。



人権啓発推進企画員の
中川喜代子先生

園田地区	武庫地区	立花地区	大庄地区	小田地区	中央地区	第7期人権啓発推進員さんの紹介
奥田 菁一さん 中橋 一さん	辰己 はつ美さん 中本 昌次さん 古田 一夫さん	中谷 加代子さん 南本 久子さん 菅原 寿美子さん 日置 啓子さん 佐藤 征一郎さん	畑中 啓言さん 小寺 美佐緒さん 中島 信康さん	西田 和義さん 福井 隆さん 下玉利 博志さん	谷 佳子さん 寺岡 洸市朗さん	

活動報告

4月から9月の人権啓発推進員会議および研修会①

4/5 第1回会議、隣人まつり

テーマ：「人権文化溢れるコミュニティづくりを尼崎から発信しよう！」

講師の中川先生から地域コミュニティについて、地域が抱えている課題や、地域で何ができるかなどのお話の後、意見交換を行いました。

会議の後、第3回隣人まつりを実施しました。



4/26 第1回研修会

テーマ：「ジェンダー（社会的性差）意識はつくられる」

講師の中川先生からジェンダー（社会的性差）意識はつくられる～“女人禁制”と女の“穢れ”について考える～」をテーマに、その歴史的な背景や、現代においてもなお女性が相撲の土俵に上がれないといったことを講話いただき、その後意見交換をしました。

5/17 第2回研修会

テーマ：「セクハラとは？」について、意見交換しましょう！

講師の中川先生から「セクハラとは？」をテーマに、セクハラの定義や職場・学校でのさまざまな場面での具体的なセクハラについての講話の後、意見交換をしました。

6/14 第2回会議

テーマ：「インターネットと人権問題」

講師の公益社団法人尼崎人権啓発協会の三澤事務局長から「インターネットと人権問題 ～尼崎市モニタリング事業から～」をテーマに、インターネットの中での差別書込みや誹謗・中傷事象の現状や、尼崎市で実施している「モニタリング事業」について概要の講話の後、意見交換をしました。



4月から9月の人権啓発推進員会議および研修会②

6/28 第3回研修会

テーマ：「宗教と部落問題」

講師の中川先生から「宗教と部落問題」をテーマに、被差別部落と「差別戒名」について、レジュメ資料にそって説明と、広島県や姫路市の部落に、市民から忌み嫌われる公共施設が集中して設置されていたとの講話があり、その後意見交換をしました。



7/26 第4回研修会

テーマ：「高齢介護・認知症介護予防について」

尼崎市健康福祉局包括支援担当認知症・介護予防担当の小川係長と山下主任を講師に迎え、パワーポイントを使って、尼崎市の高齢者の人口比率や、要介護者の数などの説明がいただきました。次に山下主任から、市で作成した「尼崎市認知症あんしんガイド（第2版）」から、認知症の予防についての説明があり、その後、中川先生の進行で質疑応答や意見交換をしました。

8/9 第5回研修会 テーマ：「子どもの虐待について」

講師の中川先生から、「子どもにとって深刻で重大な人権問題である虐待について考える」というテーマで、レジュメに沿った説明とパワーポイントを使って、虐待等が子どもの脳に与える研究結果のグラフや図、写真を示し説明があった。その後、中川先生の進行で質疑応答や意見交換をしました。

9/27 第6回研修会

テーマ：「地域活動の課題について意見交換しよう！」

講師の中川先生の進行で、先日の台風21号の各地域での被害状況や地域のリーダーとして取り組んだことで、困ったこと、課題などを中川先生の進行で質疑応答や意見交換をしました。



あまがさき版・隣人まつりを開催！！

第7期人権啓発推進員の2年目を迎える今年度も、平成30年4月5日（木）の第1回推進員会議の後に、「第3回あまがさき版隣人まつり」を尼崎市立大物会館で開催しました。

当日は第1期から第7期の人権啓発推進員をはじめ、市の関係者など17名の参加がありました。また、コミュニティづくりの手法として、食材をそれぞれ持ち寄っての「天ぷらづくり」を昔懐かしい七輪で調理し、その他持ち寄った品々も含め、楽しい交流の場となりました。あまがさき版隣人まつりを契機に、市内各地で地域住民交流として、交流の輪が広がりつつあります。

隣人まつりって何？

きっかけは「フランスのパリのだ真ん中での孤独死」から始まりました。



1999年、死後1カ月を経過した高齢者の住居の片付けなどを経験した30歳のパリ市の職員が隣人との接触を避けている自分の生活を振り返り、自分の周りにも同じようなことが起きているのでは、とショックを受けました。そこで、「隣人を外に連れ出そう！」と決意し、ご近所同士が飲み物や食べ物を1品ずつ持ち寄って、おしゃべりするパーティー「隣人祭り」を開くことを考えました。招待状を近所の家への郵便受けに配って集まった100人以上の人からは、「こんなお祭りをなぜ今まで考え付かなかったのだろう」という声が次々に挙がりました。祭りでの話題は、子どもたちが通う学校のことから、ごみの出し方や夜遅くに騒ぐ住民への苦情まで、さまざまです。今まで話ができなかったことも、ワインでリラックスした雰囲気の中では、本音で話し合えるようでした。今ではフランスだけでなく、ヨーロッパ中に広がって280万人もの人が参加するイベントに発展しました。

孤独で悩まなくてよくするためには・・・

今求められることは、孤独で悩まなくてもいい社会を築くため、ご近所の助け合い精神を新しい形で復活させることが大事ではないでしょうか。